

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 541-0051
住 所 大阪府中央区備後町2丁目1番8号
氏 名 新日本理化株式会社
代表取締役社長 藤本万太郎
(代理人) 川崎工場長 西村政彦
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	新日本理化株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区浮島町7番2号		
該当する事業者 の要件	☐ 規則第4条第1号該当事業者		
	☐ 規則第4条第2号該当事業者		
	☐ 規則第4条第3号該当事業者		
	☐ 規則第4条第4号該当事業者		
	☒ 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	可塑剤、酸無水物の製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量	1,408	k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ～ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	環境への取り組みについては、当社のホームページにて公表しています。 http://www.nj-chem.co.jp/environment/approach.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

新日本理化株式会社の基本方針（川崎工場もこれに則り活動を実施しています）

ISO14001（2004） 認証取得済み

＜環境方針＞ 新日本理化株式会社は、化学品の製造および研究開発に関わる事業活動と、これら製品の環境影響を低減するための環境管理を実践すると共に、資源枯渇防止に配慮して再生可能な原料の調達に努め、環境負荷との調和を考えた活動を推進いたします。

(1) 法遵守と汚染防止

環境に関わる法規制その他の要求事項を遵守して環境汚染の防止に努め、社会や地域の環境保全に努めます。

(2) 環境負荷低減活動

事業展開に伴う環境汚染を把握し、且つ継続的な改善にて環境管理を行い、汚染の予防に取り組みます。

①環境配慮型商品の購入、および製品の設計・開発・製造・販売活動を展開します。

②有害化学物質の把握、管理を強化して、排出物の削減活動を行います。

③環境負荷に配慮した研究開発、および排出物の管理に努めます。

(3) 教育および周知活動

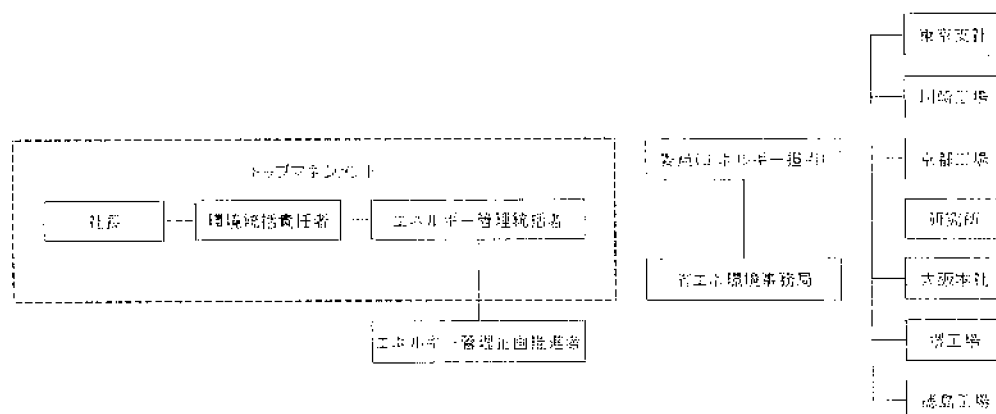
この環境方針を達成するために環境目的・目標を設定し、自主的に環境汚染防止活動が実践できるよう、環境教育を通じ全従業員に周知いたします。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

弊社環境マネジメントプログラムに基づき年次環境目標および改善計画を策定し、半年後ごとのレビューを通じてPDCAサイクルを実行・管理いたします。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

エネルギー管理組織図



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
基 準 年 度		2018		年度	
目 標 年 度		2021		年度	
基 準 排 出 量	(実)	3,074		(実)	
	(調)	3,056	t-CO ₂	(調)	t-CO ₂
目 標 排 出 量	(実)	3,043		(実)	
	(調)	3,041	t-CO ₂	(調)	t-CO ₂
削 減 量	(実)	31	t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
内 訳	対策実施による削減量	(実)	31 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
削 減 率	(実)	1.0	%	(実)	%

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原 単 位 等 の 活 動 量		生産数量			
原 単 位 の 単 位		t-CO ₂ /t			
基 準 年 度 の 値		0.1844			
目 標 年 度 の 値		0.1789			
削 減 率		3.0		%	

ウ 目標設定に関する説明

2021年度のCO2排出量を対2018年度1%削減する。そのために、対象期間（2019年度～2021年度）中に、エネルギー使用量の管理強化・解析の実施・改善事項の遂行および省エネルギー型設備・機器の導入等を行う。
--

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容（別表第 1 から 6 等を参考に記載してください。）

計 画	(1) エネルギー使用量の管理強化・解析の実施、改善事項の遂行 ・製品タンク保温蒸気トレースの見直しと保温強化 ・温水タンク蒸気使用量、蒸気吹込み蒸気量の適正化 ・機器（真空ポンプ）稼働時間の短縮 など (2) 省エネルギー型設備・機器の導入 ・変圧器の更新 ・構内および構内道路照明のLED化の推進 ・エアー配管再構築（ロス改修）およびインバーター式エアーコンプレッサーの導入 など	
第 1 年度		
第 2 年度		
第 3 年度		
計画期間における取組の評価 （第 3 年度の報告時に記載）		

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

・製品タンクの加熱源として蒸気ドレインの活用 ・機器の稼働時間（消費電力）、設備の蒸気使用量等の把握を可能にするデータ収集システムの導入 ・エアー配管再構築によるコンプレッサー使用電気量の低減 ・照明設備のLED化実施（段階的に実施中） など
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検 討 結 果
太 陽 光	×	
風 力	×	
バ イ オ マ ス	×	
未 利 用 エ ネ ル ギ ー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	(1) 環境マネジメントシステムを活用し、廃棄物排出削減に向けた目標管理活動および 3 R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動を推進いたします。 (2) 有害化学物質の把握・管理を強化し、排出物の削減を行います。 (3) 省エネ・環境教育を実施します。 (4) 商品の保管場所の見直し、まとめ配送等を通じて、商品輸配送距離の短縮を推進します。
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	3,074	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

1,408	K L
-------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
川崎工場	川崎区浮島町7番2号	3,074 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂